Japanese Council of Science Museums Newsletter Vol.40. No.1

全科協ニュース

URL http://www.kahaku.go.jp/jcsm/

全国科学博物館協議会 〒110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成22年1月1日発行（通巻第230号）

特集：再び指定管理者制度について

平成15年にスタートした指定管理者制度について、全科協ニュースでは平成19年１月１日発行号（Vol.37. No.1）で「指定管理者制度導入の現場から」と題する特集を組んでいる。この特集と前後して平成19年5月には日本学術会議が「博物館の危機をのりこえるために」という声明を発表しているが、状況はその後どう変化しているのか。今回は、科学系博物館での指定管理導入の実態を概観するとともに、実際に指定管理者制度を導入している施設からの積極的な意見と、制度導入が進んでいる天文教育界からの現状を憂慮する意見の両方を紹介する。各執筆者の立場での論考ではあるが、今後の方向性を探る議論の一助としていただきたい。

科学系博物館における指定管理者制度の導入状況について

国立科学博物館　連携協力課係長　浅草 澄雄

指定管理者制度の施行から５年以上が経過し、科学系博物館においても多くの館で指定管理者制度が導入されている。筆者が科学研究費補助金によって行った調査結果から、平成17年度の社会教育調査報告書における登録博物館・博物館相当施設（以下、登録・相当博物館）のうち科学系博物館における指定管理者制度の導入状況と、全科協加盟館における指定管理者制度の導入状況を報告する。

調査方法は悉皆調査であり、指定管理者を導入しているすべての博物館に関して、各自治体の指定管理者制度ホームページや議会録の調査、各館への聞き取り調査を行った。紹介するデータは平成21年４月１日現在のものである。

科学系博物館における指定管理者制度の導入状況

表１に示すように、登録・相当博物館の科学系博物館67館のうち、14館で指定管理者制度が導入されている。導入率としては20.9%で、登録・相当博物館全体の導入率が18.8%（125/665館）であるので平均的と言える。

この14館の内訳を紹介すると、館種としては、ほとんどが科学館であり、自然史系の博物館は大阪市立自然史博物館（指名2年財団法人）と島根県立三瓶自然館（公募5年財団法人）の２館のみである。選定方法では指名が８館、公募が６館である。また、１２館では、既存の財団法人がそのまま指定管理者となっているが、直営から指定管理者制度を導入した室蘭市青少年科学館ではNPO法人が、同じく直営だった愛媛県総合科学博物館では民間企業が、指定管理者となっている。

全科協加盟館における指定管理者制度の導入状況

表２は、全科協加盟館の状況である。加盟館235館のうち公立博物館は143館あり、そのうち49館（34.3%）で指定管理者制度が導入されている。

選定方法では指名が27館（55.1%）、公募が22館（44.9%）である。指定管理者の属性としては、財団法人が34館（69.4%）、民間企業が10館（20.4%）、第三セクターが４館（8.2%）、地方自治体が１館（2.0%）である。

民間企業が指定管理者となった事例について

指定管理者制度を導入している全科協加盟館49館のうち、10館（20.4%）で民間企業が指定管理者となっている。登録・相当博物館においては11.4%であるので、民間企業率が高いといえるであろう。

この10館について詳しくみていくと、選定方法については、10館中９館が公募である。仙台市天文台だけはPFIの関係もあり指名（30年）となっている。施設新設時に導入した例は仙台市天文台・千葉市科学館・沖縄県立博物館美術館の３館、直営から導入した例は板橋区立教育科学館・呉市海事歴史科学館・愛媛県総合科学博物館の３館、もともと管理委託だった施設は残りの４館である。この４館のうち、神戸市立青少年科学館・佐賀県宇宙科学館の２館では既存の財団が敗退している。徳島県立あすたむらんどでは既存の財団は応募していない。新潟県立自然科学館でも２期目の公募に既存の財団は応募していない。

なお、徳島県立あすたむらんどの指定管理者は既存財団のＯＢが設立した会社である。また、新潟県立自然科学館では、新潟県文化振興財団が１年だけ、指名で指定管理者となったが、２期目は辞退した。公募の結果、自然科学館運営グループ（アクティオ・五藤光学研究所・トータルメディア開発研究所・新潟ビルサービス）が指定管理者となっている。民間企業が指定管理者となった事例も詳細に分析するとこのように多種多様である。

指定管理者制度と諸制度について

指定管理者制度導入館ではＰＦＩやネーミングライツなどの諸制度も併用して導入している事例が見受けられる。

①ＰＦＩ

ｅ－とぴあ・かがわ（H16.4開館）は文化施設として初めてPFI事業を導入した施設であり、かがわ県民情報サービス株式会社（凸版印刷・トータルメディア開発研究所・ＮＴＴドコモ・大成建設・デジタルハリウッド・アムロン）が施設を整備し、また、運営については同社が公募10年で指定管理者となっている。仙台市天文台（H20.7開台）は施設の設計、建設、維持管理及び運営までを一括して入札しており、株式会社仙台天文サービス（伊藤忠商事・ＮＴＴファシリティーズ・戸田建設・橋本・五島光学・トータルメディア開発研究所）が事業者となり、指名30年で指定管理者となっている。

②ネーミングライツ

わくわくグランディ科学ランド（栃木県子ども総合科学館、５年、年額2000万円）と、はまぎんこども宇宙科学館（横浜こども科学館、５年、年額3000万円）の２館で導入されている。なお、他館においても指定管理者の募集要項に「指定管理期間中にネーミングライツを導入する可能性があります」などと書かれている事例も見受けられるので、今後導入事例が増えるであろう。

③地方独立行政法人

大阪市では７つの博物館施設で地方独立行政法人化を目指していたが、２回の特区提案とも対応困難という回答があった。そのため、平成21年度末で現在の指定管理期間が終了することなどから、博物館施設を管理する監理団体の統合について検討を進めている。

まとめにかえて

指定管理者制度といってもその導入事例は多種多様である。「指定管理者制度の弊害」が叫ばれて久しく、安易なコストカットの道具として利用し、指定管理者の倒産、契約解除、再指定の辞退などの事例も出ている。しかし、その一方で制度の本質である「サービスの向上と経費の節減」を両立させている事例も多い。博物館において指定管理者制度をうまく機能させるためには、設置者である自治体の自治能力が試されているといっても過言ではないだろう。

註）科学研究費補助金　若手研究（B）　浅草澄雄　「指定管理者制度導入にみる、新たなミュージアムガバナンス論の展開」（H19～21）の研究成果による。

表1.登録博物館及び博物館相当施設における指定管理者制度導入状況

館　種	登録相当	指定管理者	割　合
総合	117	9	7.7%
科学	67	14	20.9%
歴史	240	34	14.2%
美術	191	49	25.7%
野外	5	2	40.0%
動物園	23	9	39.1%
植物園	4	2	50.0%
動植物園	4	0	0.0%
水族館	14	6	42.9%
合　計	665	125	18.8%

表2.全科協加盟館における指定管理者制度導入館一覧

NO	県　名	博物館名	指定回数	指定期間	選定方法	属　性
1	北海道	札幌市青少年科学館	1回	4年	公募	財団法人
2	北海道	釧路市こども遊学館	2回	5年	公募	財団＋α
3	岩手県	岩手県立博物館	2回	3年	公募	財団法人
4	宮城県	仙台市天文台	1回	30年	指名	民間企業
5	福島県	いわき市石炭・化石館	2回	5年	指名	財団法人
6	福島県	郡山市ふれあい科学館	2回	5年	指名	財団法人
7	福島県	ふくしま森の科学体験センター	2回	3年	指名	財団法人
8	茨城県	日立市シビックセンター	1回	5年	指名	財団法人
9	栃木県	わくわくグランディ科学ランド（栃木県子ども総合科学館）	2回	5年	公募	財団法人
10	群馬県	高崎市少年科学館	1回	5年	指名	財団法人
11	千葉県	千葉市科学館	1回	5年	公募	企業連合
12	千葉県	東金こども科学館	2回	3年	指名	財団法人
13	東京都	府中市郷土の森博物館	1回	5年	指名	財団法人
14	東京都	板橋区立教育科学館	1回	5年	公募	民間企業
15	神奈川県	はまぎん こども宇宙科学館（横浜こども科学館）	1回	5年	公募	財団法人
16	新潟県	新潟県立自然科学館	2回	3年	公募	企業連合
17	富山県	富山県立山博物館	2回	4年	公募	財団法人
18	富山県	立山カルデラ砂防博物館	2回	5年	指名	財団法人
19	富山県	黒部市吉田科学館	2回	3年	指名	財団法人
20	福井県	福井県児童科学館（エンゼルランドふくい）	2回	5年	公募	財団法人
21	山梨県	山梨県立科学館	2回	5年	公募	財団法人
22	長野県	佐久市子ども未来館	1回	10年	指名	第三セクター
23	岐阜県	大垣市スイトピアセンター学習館	1回	4年	指名	財団法人
24	岐阜県	岐阜県先端科学技術体験センター	1回	5年	指名	財団法人
25	静岡県	浜松科学館	1回	5年	指名	財団法人
26	静岡県	ディスカバリーパーク焼津「天文科学館」	2回	5年	指名	財団法人
27	静岡県	静岡科学館	2回	5年	指名	財団法人
28	静岡県	富士川楽座	2回	5年	指名	第三セクター
29	愛知県	あいち健康の森健康科学総合センター健康科学館	1回	5年	指名	財団法人
30	大阪府	大阪市立自然史博物館	2回	2年	指名	財団法人
31	大阪府	大阪市立科学館	2回	2年	指名	財団法人
32	大阪府	東大阪市立児童文化スポーツセンター	2回	2年	指名	財団法人
33	兵庫県	神戸市立青少年科学館	1回	4年	公募	企業連合
34	兵庫県	兵庫県立西はりま天文台公園	1回	5年	指名	地方自治体
35	島根県	島根県立宍道湖自然館	1回	5年	公募	財団法人
36	広島県	広島市こども文化科学館	1回	4年	指名	財団法人
37	広島県	広島市交通科学館	1回	4年	指名	第三セクター
38	広島県	呉市海事歴史科学館	1回	3年	公募	企業連合
39	広島県	広島市健康づくりセンター健康科学館	1回	4年	指名	財団法人
40	山口県	防府市青少年科学館	1回	5年	指名	財団法人
41	徳島県	徳島県立あすたむらんど	1回	5年	公募	民間企業
42	香川県	ｅーとぴあ・かがわ（情報通信交流館）	1回	10年	公募	第三セクター
43	愛媛県	愛媛県総合科学博物館	1回	5年	公募	民間企業
44	福岡県	福岡県青少年科学館	2回	3年	公募	財団法人
45	福岡県	北九州イノベーションギャラリー(北九州産業技術保存継承センター)	1回	3年	公募	財団＋α
46	佐賀県	佐賀県宇宙科学館	2回	3年	公募	企業連合
47	宮崎県	宮崎科学技術館	2回	5年	公募	財団法人
48	鹿児島県	鹿児島市立科学館	1回	5年	指名	財団法人
49	沖縄県	沖縄県立博物館・美術館	1回	5年	公募	企業連合

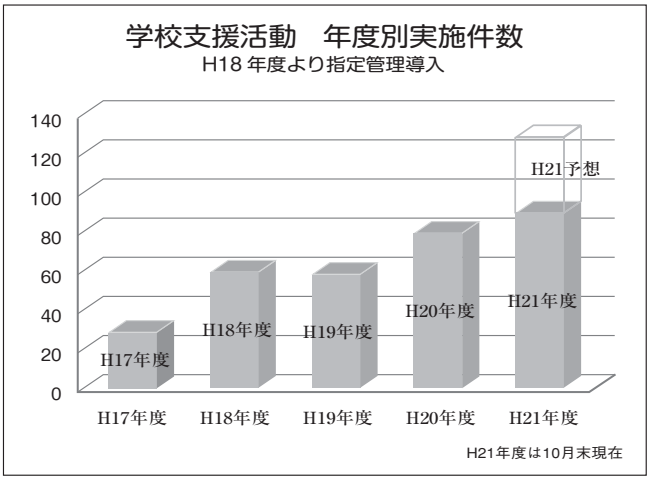
制度が完全ではないことを理由に「競争原理」の導入をやめてはならない

佐賀県立宇宙科学館 館長　許斐 修輔

1. 平成21年4月から指定管理の第２期を開始

当館では平成２１年３月末に指定管理の第１期の３年間が終了し、平成21年４月からは第２期が始まった。第２期の３年間も継続して乃村・松尾宇宙科学館活性化共同事業体が管理運営を行うこととなり現在に至っている。

第１期の３年間の入館者数は、概ね横ばいの約20万人／年であった。初年度、２年度は前年度に比し微増であったが、第３年度の平成21年度は景気の大幅な後退やガソリンの値上げ等の影響もあり前年に対して微減となった。しかしながら指定管理第１期の３年間に、地域の人たちとの連携の強化、学校支援等のアウトリーチ活動の積極化等、館の手持ち資源を有効に活用するという点で大きな成果を上げてきた。



2. 指定管理制度は「競争原理」を導入し「よりよい施設にする」ための試み

昨今の指定管理に関する議論は必ずしもかみ合ったものではない。指定管理者制度は競争原理を導入することで、投下する費用に対しよりよい成果を求め「よりよい施設にする」取り組みである。競争の導入で、「よりよい施設」に出来なければ次回の登板はない。競争の「厳しさ」で「よりよい施設」にする努力を促すものである。

社会のグローバル化に伴い種々の場面で「公平」「機会均等」等の原則の尊重が求められる。公的な施設を「恣意的」あるいは「不透明」な形で管理運営を外部に委ねることは許されない。「公平」「機会均等」の原則の下、競争条件を付すことで効率的でより質の高い施設の実現を目指すのは当然の流れである。

県や市の財政状況が逼迫してきたから節約のために新しい制度を導入するのではなく「公平」「機会均等」の原則から「競争原理」の導入はもともと必要なものであった。

3.「緊張感」、「努力」が地域住民にとっての「よりよい施設」に繋がる

「公」あれ「民」であれ何かの事業を行うとすれば資金は必ず必要となる。必要な資金無しに何人も成果を上げることは出来ない。指定管理は節約のための仕組みではなく、投入する資金に対し「最大の成果」をあげること目指す仕組みである。

競争原理が導入されれば、努力不足で十分な成果を上げられなければ次回の登板が無くなる。努力と緊張感の維持が求められ、これがより効率的な管理運営に繋がる。競争による努力や緊張感を嫌う者が「十分な成果」をあげ「最大の貢献」をなすとは考えられない。

4. 地域の人たちに貢献するという視点

指定管理は施設やハードの管理運営には適していても博物館や科学館等の文化施設の管理運営にはそぐわないとの批判もある。また、公的な文化施設を民間企業が管理運営をすることなど不可能だとの批判もある。

指定管理に批判的な人も「博物館や科学館が地域の人たちのために存在し、地域の人たちのために貢献する」ことの重要性には同意する。しかし、同じ言い方ながら「地域への貢献」の中味は違うことが多い。自分たちは専門的な高い立場から判断し、質の高い活動で「地域の人たちに貢献している」という論理だ。地域の一般の人たちは専門知識が乏しく必ずしも正しい評価は出来ない。従って専門家である自分たちの考えが「地域への貢献」でも優先され

る。自分たちが実施すべきだと思うことを展開することが「地域の人たちへの貢献」に繋がるというものである。

果たしてこの種の論理が本来の意味で「地域の人たちへの貢献」と言えるだろうか？自分たちの活動を正当化するために「地域の人たちへの貢献」を持ち出すことは控えるべきだ。もっと真摯に地域の人たちのニーズを聞くことなしに「地域への貢献」はあり得ない。地域の人たちの総意を踏まえた評価、合意があってこそ地域への貢献と呼べるのではなかろうか？

また、指定管理では「成果は来館者数のみで評価され、結果的に質の低下が避けられない」との批判もある。地域への貢献の評価軸はそれほど単純なものなのだろうか？来館者数でしか地域の人たちが評価しないと言うのであれば、その施設に対して地域の人たちはそれ以上の機能を期待していないのかもしれない。その程度の施設に堕していないかを疑う必要があるだろう。「成果が来館者数のみで評価」されると批判する前に、その施設がその地域にどう貢献することを求められているかを再度振り返ることが必要であろう。

競争原理が導入されることで、地域の人たちが真に望んでいることに応えなければ「次回」が無くなる。偽善的な「地域への貢献」は出番を失う。指定管理は地域の負担に対し「より大きな効果」をもたらす可能性を秘めた仕組みであり、完全ではなくてもベターな仕組みではないだろうか？

5．規則遵守を重視する評価と、最終結果の善し悪しを重視する評価

指定管理は公的な組織による管理運営と比較されることが多い。指定管理は必ずしも民間による管理運営ではないが、公的な運営と民間による運営の善し悪しの議論である。

地域と連携した行事「ほたる祭り」

公的な管理運営が好ましいと考える人たちは、公的な管理運営では明文化された「規則や規定で管理する」ので質が高い管理運営が可能と考える。しかし、「あらかじめ決めた規則・規定で縛る」ということは、不測の事態、時の変化に柔軟に対応するという考え方とは相容れない。明文化されていないことを行うことは「逸脱行為」や「違反行為」となりかねない。状況の変化や時の流れに即応することが難しい。規則や手続きの遵守が最優先事項であり、柔軟な対応は後回しとなる。規則に照らして合格、不合格が問題とされることが多い。

民間の発想では、規則を遵守しても結果が悪ければ誹られる。規則や手続きが適正でも結果が悪ければ評価は下がる。合格、不合格ではなく、結果の善し悪しが評価軸となる。規則や手続き遵守を重視する仕事の進め方と、最終結果の善し悪しを問題とする民間の仕事の進め方では、費用対効果の最大化では大きな違い出る可能性があろう。節約や倹約が評価されない仕組みの中では費用対効果の最大化を求めることは難しい。少なくとも日本においては公的な組織による管理運営は、その仕組み上、費用対効果を最大にするという作業には馴染まないのではなかろうか？

6．制度が完全ではないということで競争原理導入をやめてはならない

指定管理は過渡的な制度であり大きな問題もかかえている。特にこの制度の下で働く人たちの就労環境は改善が求められる大きな問題である。長期的な雇用が保障されないので、スタッフは将来展望を持ちにくい。優秀な人材がこの分野を避けるようになれば人材面で厳しい問題となる。

米国の国立研究所は民間の企業により運営管理が行われ、研究者もその従業員となっている。米国で民間企業による国立研究所の管理運営できちんと機能する状況を見れば、日本においても競争条件を付した公的な施設の管理運営が出来ないとは考えられない。もちろん、今後、制度をよくするための努力、改善は必要ではあるが、競争条件を排除するようなことがあってはならない。

優秀な人材がいなければ指定管理を受ける業者だけでなく、施設の所有者、そこで働く者、そしてサービスを受ける人たち全てにとって不幸な状況となる。競争原理導入の下で優秀な人材を確保し育てる仕組み、工夫を模索することが緊急の課題であろう。

プラネタリウム館・天文教育施設における指定管理者制度の現状

日本プラネタリウム協議会　理事長　加藤 賢一

1. はじめに

プラネタリウムは天体・宇宙の解説を中心として科学の普及教育や情操教育を行っている施設で、わが国ではおよそ250館ほどが一般公開している。そのうちの150館に企業60社、個人40名が加わって日本プラネタリウム協議会（略称JPA、理事長：加藤賢一）が構成されている。国際プラネタリウム協議会（IPS）の構成団体であり、わが国のプラネタリウム界を代表して活動を行なっている。約100館ある科学系博物館の多くにプラネタリウムが設置されているので、本協議会会員館の中には加盟されている館もあることと思う。

2008年12月、日本プラネタリウム協議会は日本天文学会（理事長：土佐誠）、天文教育普及研究会（会長：松村雅文）、日本公開天文台協会（会長：小関高明）とともに記者会見を行い、「天文教育施設の機能と役割を果たすために」と題する共同声明を発表した（文献1）。指定管理者制度の運用に伴い、「天文教育施設の本来の機能が損なわれることを憂慮して」、「天文教育施設（博物館・科学館、プラネタリウム、公開天文台など）の設置・運営等」を行なっている自治体等に向け、「天文教育施設の機能と役割を果たすために」引き続きご尽力いただくよう要望したものであった。

ここでは共同声明が採択・発表されるに至った背景についてご紹介し、プラネタリウム館、天文教育施設における指定管理者制度の運用実態についてご報告する。

2. 指定管理者制度の実態

日本プラネタリウム協議会は天文教育普及研究会と共同で指定管理者制度導入について実態調査を行い、2007年5月、「天文系社会教育施設における指定管理者制度導入の実態」と題するレポートを発表した（文献2）。これは指定管理者制度導入（本格実施2006年9月1日）直後の2006年12月時点における状況を調査したもので、275施設を対象とした（回答124館）。また、2008年10月には日本公開天文台協会会員館も対象として再度実施し（回答51館）、その後の変化を見ることにした。以下では後者の調査結果をご紹介しよう。

1）指定管理・直営比

指定管理：直営　＝　５３：４７（全51館）

である。2006年12月には44：56という割合であったから、約２年の間に外部委託の割合が有意に増加している。

2）指定管理選定法

公募：非公募：不明＝５６：１５：３０

3）指定管理期間

３～５年に集中し、３年がほぼ半数であった（図1）。

4）予算の増減

指定管理への移行による予算の変化を聞いたところ、以下のような割合であった（27館）。

削減：変化なし：不明＝７４：２２：４

5）予算削減個所（1）

予算が削減されたと回答した20館にどのような教育活動・見学者サービスが削減対象となったかを聞いた結果が図２である。

6）予算削減個所（2）

次にそれを事業費目毎に聞いてみた結果が図３である。費目は、事業費、建物維持管理費、人件費の３種類に絞った。人件費は85%の館で削減されている。

7）市民サービスへの効果

指定管理によって市民サービスが向上したかどうかを聞いた結果が図４で、活動全般にわたって向上したという館が多かった。プラネタリウムの割合が多いのは投影回数が増えたからである。窓口サービスやレファレンス機能が向上している。

図1.指定管理期間（年）の割合

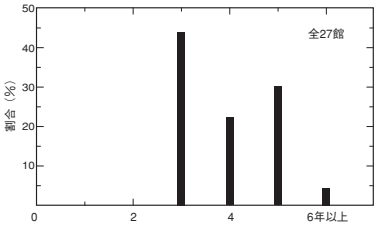


図2.予算が削減されたところ（1）

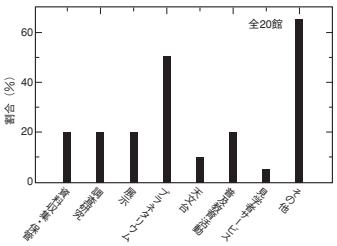


図3.予算が削減されたところ（2）

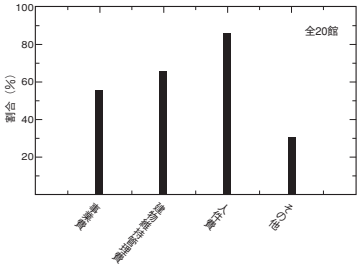
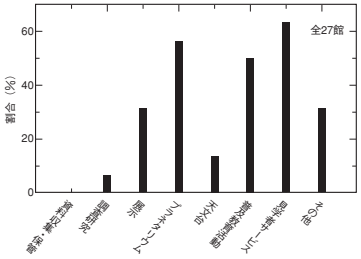


図4.市民サービスが向上したところ



3．指定管理の実態から見えてくるもの

1）指定管理の目的と結果

指定管理者制度の目的は、

・民間の能力を活用しつつ、

・住民サービスの向上を図るとともに、

・経費の節減等を図ること、

で、それにより、多様化する住民ニーズに応えることである。今回の結果を見ると、経費は節減され、住民サービスは向上したという結果であり、民間の能力の活用が功を奏したと言える。財政難の折にもかかわらず、何とか施設を維持していきたいという自治体の思いに指定管理者制度は応えているように見える。また、住民の視点からも同じように言える。管理者が行政から離れることによって税の投入が減り、住民サービスが向上したのであるから、大いに歓迎すべきことであろう。

2）見えない住民サービス削減

プラネタリウム館の中には活動休止や閉館となっているところもあるが、こうした館のデータは上の調査には入っていない。つまり、最も大きな住民サービスの削減は見えてこない。この種の調査の限界である。

3）官製ワーキングプア

図2と図4を見ると、プラネタリウムの予算は減っているのに市民サービスは向上しており、経費削減⇒市民サービス向上、と見えないこともない。しかし、そんなうまい話はどこか破れているはずである。その破れが図3に見えている。人件費削減である。

アンケートの自由記載欄に寄せられた現場職員の声には悲鳴に近いものがあった。低賃金・長時間労働・劣悪な労働環境などを始め、短期雇用契約・不安定雇用といった現在大きな社会問題となっている若年層の就労問題がそのまま表出していた。最も大きな経費削減項目が人件費であり、推して知るべしであった。自治体がワーキングプア生産の一端を担っていると言われても仕方のないところまで来ていることが窺える結果であった。

4）情報の寡占・独占

指定管理になっての問題で興味深い指摘があった。それが情報の寡占・独占の問題である。つまり、指定管理者にとっては全自治体がお客様であり、他館の指定管理者はライバル以外の何者でもない。いつ自分がとって代わられるか分からないのだから当然であろう。これまでの直営時代にはなかった構図である。その結果、我々の協議会においても情報やノウハウの提示が極めて限定的になってきた。たとえば、これまで投影技術などを相互に披露し、啓発し合うという相互扶助・相互啓発精神があったが、これが損なわれることになってきた。他の指定管理者を利するようなことはできないだろうから、分からない話ではない。

4．結論に代えて―天文系4学協会の共同声明

以上のような実態とその評価に基づき、2008年12月、天文系4学協会は事態を憂慮し、共同声明の発表となった。要望したのは下記の2点である。

・事業を円滑に進めるのに欠かせない長期的な視点を保障するため、継続性の確保を図っていただきたい。

・天文教育施設の機能と役割を維持するため、専門知識と経験を有する職員を適正に配置し、その専門性の維持・向上に格段のご配慮をいただきたい。

この時点では継続性が保証されないことが利点とも欠点ともなる両刃の剣であるという認識であった。今、多くの施設が指定管理者の切り替え時期を迎えており、結果に不安を覚える。2つ目は上述した現場職員に関する問題である。

その後、社会状況は一層厳しさを増している。こうした中でせっかくの施設をどのように活用していくか、もっと知恵を出さなければならないと思っている。

参考文献

1、2共に日本プラネタリウム協議会のホームページ http://shin-pla.info/　にある。

海外ニュース No.95 安井亮

インドネシア・バンダアチェ市に津波博物館が開館

2004年12月26日に大津波をともなったスマトラ沖地震はなお多くの人々の記憶に鮮明に残っているが、津波の被害が大きかったインドネシア北西端のアチェ州バンダアチェで、大津波被害の記憶を後世に伝える記念博物館が、2009年2月23日に開館した。アチェ州は最大の被災地で、大津波により約24万人が犠牲となった。新しい建物（延べ床：2500㎡）は、大津波の発生のメカニズムを紹介したシミュレーション装置の他に、津波の被害の実態を伝える写真等を展示している。また同館は再び大津波が襲ってきた場合の緊急避難場所としての機能もはたしている。総工費は約560万ドル。

Tsunami Museum, Banda Aceh, Indonesia.
http://www.youtube.com/watch?v=cNooyzgpDpo&NR=1&feature=fvwp
http://nasabe.net/2009/03/18/aceh-tsunami-museum/
http://www.worldarchitecturenews.com/index.php?fuseaction=wanappln.projectview&upload_id=11248

米デトロイト科学館で、グアナファトのミイラ展を開催中

ミイラといえば、すぐに包帯でぐるぐる巻きにされた古代エジプトのミイラを連想してしまうが、メキシコのグアナファトでは、乾燥した気候のために、古くから風習とされてきた土葬の遺体は、何の防腐処理も必要とせず、自然に遺体をミイラにしてしまうのである。そのグアナファトにあるミイラ博物館で所蔵されている36体のミイラが、国外での公開という初めての試みとして、デトロイト科学館で開催されている。ミイラはいずれも生前ごく普通の人たちばかりであった。炭坑夫だったり、神父だったり、あるいは兵士、農夫や子どもだった。会期は、2009年10月10日から2010年４月11日まで。デトロイトでの開催のあと、2012年まで米国の６ヶ所の会場を巡回する予定だ。

The Accidental Mummies of Guanajuato.
Detroit Science Center, Detroit.
http://www.detroitsciencecenter.org/AccidentalMummies.html
http://www.mummytombs.com/mummylocator/group/guanajuato.closeup.htm
http://www.mummytombs.com/mummylocator/group/guanajuato.exhibit.htm

英ケンブリッジ大学動物学博物館で、忘れられたもう１人の進化論者アルフレッド・R・ワレスの企画展を開催中

アルフレッド・R・ワレス（1823-1913）は、ダーウィンより14年下で、終生ダーウィンに兄事した進化論者である。『種の起原』はいわばダーウィンの名を決定的にし、現在に至っているわけだが、弟分であるワレスは長く人々の記憶から忘れ去られてきた。ケンブリッジ大学動物学博物館で開催中の企画展「アルフレッド・R・ワレス：忘れられてきた進化論者」は、ワレス研究の第一人者であるロンドン自然史博物館のG・ベッカローニ博士がゲスト・キュレーターとして企画し、ワレスの旅行、野外調査、アイデアの紹介を通じて、進化論の形成への彼の貢献を明らかにしている。同展では、ワレス自身が収集した約８トンにものぼる自然史標本と人類学標本（その多くがケンブリッジ大学動物学博物館の所蔵品）の一部も紹介されている。会期：2009年11月５日～2010年2月8日。

A R Wallace: The Forgotten Evolutionist.
University Museum of Zoology, Cambridge.
http://www.zoo.cam.ac.uk/museum/events/

米ファーンバンク自然史博物館で、学芸員でない職員が選んだ「私が最もスキな所蔵品」展を開催中

博物館（美術館を含む）で開催する展覧会は、だいたい館の職員である学芸員が手がけることは周知の通りである。さもなければ、他館あるいは大学等の研究者がゲスト・キュレータとして展覧会を手がける。しかし、どうやら例外もあるようだ。五輪が開催されたアトランタにあるファーンバンク自然史博物館で開催中の企画展「私が最もスキな所蔵品」展は、まさにその一つだ。同展は、いわゆる学芸活動とは縁がない業務に関わっている職員の目に、これはおもしろいと思った収蔵品が選ばれて展示されている。財務から始まり、警備や情報管理システムの部署からそれぞれ1名ずつ選ばれ、ゲストキュレーターとして、自分の主観・趣味だけを頼りに展示品を選んだ。その道の専門家でない視点で選ばれたことで、多くの観覧者の共感を得ているようだ。会期中に顔ぶれをかえて、展示替えもしている。専門家の思惑が観覧者の思惑と一致すれば展覧会はとりあえず成功すると考えられているが、そ

うでない場合は残念な結果に終わることが多い。そういう意味で、門外漢である同僚が何を考えているかを知ることは大切なことのように思われる。なぜなら彼らこそ、町の人の考えを代表している（こともあり得る）からだ。会期：2009年９月６日～2010年２月１日

My Favorite Things: Objects from Fernbank's Permanent Collections.

Fernbank Museum of Natural History, Atlanta.

http://www.fernbankmuseum.org/exhibitions/special/my-favorite-things/

■展覧会情報

英オックスフォード大学科学史博物館で、「スチームパンク：ビクトリア様式風パンク・アート」展を開催中

会期：2009年10月13日～2010年２月21日

Museum of the History of Science, Oxford.

http://www.mhs.ox.ac.uk/steampunk/

http://www.mhs.ox.ac.uk/steampunk/video-steampunk-at-the-museum/

国立自然科学博物館で、台湾島の植物誌展を開催中

会期：2009年11月18日～2010年５月31日。

福爾摩沙自然史探索--植物篇.

国立自然科学博物館,台中市（中華民国）.

http://www.nmns.edu.tw/public/exhibit/2009/formosa_plants/

米ハーバード大学で、「生物界における色彩の非言語的機能」展を開催中

会期：2009年９月６日～2010年３月28日。

The Language of Color.

Harvard Museum of Natural History, Cambridge.

http://harvardmagazine.com/extras/a-look-at-the-language-of-color

米デトロイト科学館で、糖尿病展を開催中

会期：2009年12月5日～2010年２月28日

Diabetes: A Deeper Look.

Detroit Science Center, Detroit.

http://www.detroitsciencecenter.org/diabetes.html

米アリゾナ科学館で、恐怖感のしくみを科学的に解明した巡回展を開催へ

会期：2010年１月31日～９月。

Goose Bumps! The Science of Fear.

Arizona Science Center, Phoenix.

http://www.azscience.org/

http://www.fearexhibit.org/about_exhibit

米マイアミ科学博物館で、法昆虫学展を開催中

会期： 2009年６月６日～2010年１月31日。

CSI: Crime Scene Insects.

Miami Museum of Science & Planetarium, Miami.

http://www.miamisci.org/www/csi-crime-scene-insects.php

米モンタナ州立大学付属博物館で、発明王ダビンチが考えたマシン展を開催へ

会期：2010年５月29日～９月６日。

Leonardo da Vinci: Machines in Motion.

Montana State University Museum of the Rockies, Bozeman.

http://www.museumoftherockies.org/Home/EXPLORE/UpcomingExhibits/LeonardodaVinci/tabid/484/Default.aspx

米ノースカロライナ自然科学博物館で、古代サメ「メガロンドン」展を開催へ

会期：2010年２月13日～５月９日。

Megalodon: Largest Shark that Ever Lived.

North Carolina Museum of Natural Sciences, Raleigh.

http://naturalsciences.org/exhibits/special-exhibits

http://www.flmnh.ufl.edu/megalodon/

米プラット博物館で、米北西海岸の地震展を開催へ

会期：2010年２月２日～３月14日。

The Big One: Earthquakes in the Pacific Northwest.

Pratt Museum, Homer.

http://www.prattmuseum.org/exhibitry/special.html

米スミソニアン自然史博物館で、絶滅危惧種の植物画展を開催へ

会期：2010年８月10日～12月10日。

Losing Paradise: Endangered Plants Here and Around the World.

National Museum of Natural History, Washington DC.

http://www.mnh.si.edu/exhibits/upcoming.htm

＊（やすい・りょう）E-post:ZAKvaran@aurora.ocn.ne.jp

1月2月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
札幌市青少年科学館	冬の特別展「大ロボット展2010」（仮）	1月5日～1月17日
釧路市こども遊学館	冬休みイベント「だまされてみよう！感覚のトリック」	1月4日～1月17日
	パネル展「日時計の楽しみ」	1月6日～1月24日
岩手県立博物館	テーマ展「旅の記憶～江戸時代から現代まで～」	12月19日～2月28日
奥州市牛の博物館	開館15年記念事業　家族で楽しむ企画展2010「寅さん！なぜ牛には虎毛があるの？」	12月6日～1月31日
秋田県立博物館	企画展「学芸員屋台村～秋田の食を考える～」	12月19日～4月11日
郡山市ふれあい科学館 ‘スペースパーク’	ホワイエ企画展－世界天文年2009公認イベント－「ガリレオから400年」	11月1日～1月31日
	ホワイエ企画展「オーロラ紀行」	2月2日～3月31日
日立シビックセンター科学館	巡回展「太陽のふしぎ」	1月5日～2月11日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	特別展示「開館15年のあゆみ－さらなる進化をめざして－」	1月30日～2月21日
栃木県立博物館	テーマ展「トウキョウサンショウウオ」	10月3日～4月11日
	テーマ展「縄文時代のまつりと道具」	1月9日～4月4日
	テーマ展「“ひと”を描く」	1月9日～2月14日
川口市立科学館	特別展「自動車～スピードへの挑戦～」	12月12日～2月11日
入間市博物館ＡＬＩＴ	企画展「第13回　むかしのくらしと道具展」	12月12日～2月14日
千葉市科学館	冬の企画展「世界の音を聴こう！」	12月23日～1月11日
千葉県立中央博物館	出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり－地下50㎝、文字の世界－」	1月9日～2月21日
千葉県立現代産業科学館	すごいぞ!! 鉄 －はじまり・伝統・最先端－	2月4日～3月14日
遞信総合博物館	はなたれ小僧は元気な子～さよなら滝平 二郎～遺作展	12月19日～2月3日
国立科学博物館	企画展「深海探査と微化石の世界－ＨＭＳチャレンジャーから“ちきゅう”まで－	12月12日～2月28日
地下鉄博物館	日本と世界の地下鉄展	11月25日～1月11日
電気の史料館	第10回企画展「ＲＡＤＩＯ ～なつかしのラジオ～」	11月20日～2月14日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「押し葉～古瀬義植物標本コレクション～」	12月5日～2月21日
糸魚川市フォッサマグナミュージアム	特別展「おめでとう世界ジオパーク展」	9月19日～未　定
立山カルデラ砂防博物館	巡回展「映像でみる立山・立山カルデラ・砂防」	2月16日～3月14日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「富士フィルムフォトコンテスト」	2月6日～3月14日
富山市科学博物館	私の身近な自然展	12月12日～2月14日
佐久市子ども未来館	企画展「色ってなぁに？　いろいろな色の企画展」	10月10日～1月11日
	日本雪氷学会巡回展「ようこそ！雪と氷の世界へ」	1月16日～3月7日
飯田市美術博物館	特別陳列「化石は語る－生物の進化と古環境－」	10月31日～2月7日
岐阜県博物館	資料紹介展「長良川のあるくらし～遺跡は語る～」	1月5日～2月14日
	日本自然科学写真協会写真展「自然を楽しむ科学の眼」	2月16日～3月22日
	マイミュージアムギャラリーの展示「懐かしいこと・新しいこと～本に見る和紙の世界～」	1月31日～3月14日
サイエンスワールド（岐阜県先端科学技術体験センター）	パネル展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」	1月9日～2月7日
静岡科学館　る・く・る	企画展「る・く・るロボットワールド～帰ってきたカンちゃんとステキな仲間たち～」	1月3日～2月14日
東海大学自然史博物館	企画展「海にもどった哺乳類・クジラ」	1月1日～4月4日
東海大学海洋科学博物館	干支の魚	1月1日～1月11日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「挑戦しよう！パズル展」	12月5日～3月7日
豊橋市自然史博物館	干支展「寅の子みせます」	12月19日～1月17日
名古屋市科学館	プレCOP10企画展「肉食恐竜マプサウルス～生物の絶滅と多様化」	12月5日～3月14日
	企画展「電気をつくろう」	12月16日～4月11日

開　催　館	展　覧　会　名	開催期間
あいち健康プラザ　健康科学館	冬の特別展示「超なりきり忍者道場」	12月19日～３月７日
トヨタ博物館	企画展「マンガとクルマ」	10月10日～３月７日
ミキモト真珠島　真珠博物館	真珠王のアラウンド・ザ・ワールド　1926年10月～1927年7月の世界一周	12月18日～３月22日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー「古生物の復元－科学と芸術が出会うところ－」	１月３日～１月31日
	お正月トピック展示「トラ」	１月３日～２月７日
大阪市立科学館	日本天文学会創立100周年記念・世界天文年2009企画展「ガリレオの天体観測から400年　宇宙の謎を解き明かす」	12月５日～１月31日
大阪市立自然史博物館	特別陳列「ヘルマン・ヘッセ昆虫展～少年の日の思い出～」	12月５日～１月17日
きしわだ自然資料館	特別展「チリモン積もって山となる～これがチリメンモンスターだ！」	１月19日～３月14日
伊丹市昆虫館	企画展「ごきぶり」	２月10日～４月５日
鳥取県立博物館	企画展「新収蔵品展 －歴史系学芸員のオススメ100選－」	１月16日～２月14日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「五感をくすぐる癒しの世界」あなたはどんな気持ちい～い？	10月31日～２月21日
	企画展「足にまつわる健康展　今・昔」足は第２の顔“足の健康雑学”	２月27日～７月11日
防府市青少年科学館　ソラール	特別展「さわってびっくり！わくわくサイエンス」	２月６日～３月７日
徳島県立あすたむらんど子ども科学館	巡回展「月のふしぎ」	12月30日～１月31日
愛媛県総合科学博物館	巡回展「美とメイク」	12月12日～１月11日
北九州市立いのちのたび博物館	巡回展「森のめぐみ」	２月６日～３月14日
（自然史・歴史博物館）	布のこころ～受け継がれる母の想いとくらしの美～	１月２日～２月21日
北九州イノベーションギャラリー	企画展「ザ・テレビゲーム展～その発展を支えたイノベーション～」	12月26日～３月14日
佐賀県立宇宙科学館	企画展「TELE」～経験を共有する技術～	10月24日～１月31日

※開催期間については、スペースの都合により月日のみの記載となっております。越年の催しについても、年の表記を省略させていただきました。ご了承ください。

リニューアル

松本市科学博物館

［更新箇所］科学展示室　多目的ブース

［新展示物］①パイプホン（塩ビパイプを使った打楽器）
②太陽電池レーシングカー
③坂道を転がり上がる車輪
④マトリョーミン（テルミン）

［運用開始］平成21年９月27日～

［製　　作］松本市科学博物館及び製作ボランティア

倉敷昆虫館

［更新箇所］倉敷昆虫館全体の改修（＊倉敷昆虫館は病院の８階にある施設です）

［更新面積］展示面積　141.46㎡
研究室面積　27.07㎡

［工　　期］平成21年６月22日～６月30日

［施工業者］（株）藤木工務店

NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、が
溢れています。

Prosperity Creator
NOMURA
http://www.nomurakougei.co.jp/

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン、設計、制作施工
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 乃村工藝社
本　社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171（代表）〒135-8622
営業拠点：札幌・仙台・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・ニューヨーク・北京・上海

Panasonic
ideas for life

Core Products
Security
Cross Media
Mobility

パナソニックだから、
可能なソリューションがある。

Total Solution
コンサルティング営業
SI・アプリケーション開発
施工・設置
保守・メンテナンスサービス
運用サービス

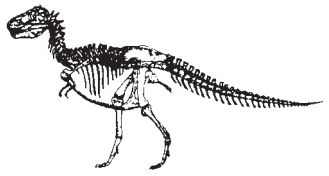
Challenge to Change!　パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
詳しくはホームページで panasonic.co.jp/pss/pssj/

より良い「社会交流空間づくり」にむけて──。
調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・
運営およびコンサルティング・プロデュース

Tanseisha

株式会社 丹青社　〒110-8549　東京都台東区上野5-2-2
TEL.03-3836-7221（代表）　http://www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇
*ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者


ティラノサウルス・REX

株式会社 ゼネラル サイエンス
コーポレーション
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03（3583）0731代表　FAX 03（3584）6247

高品質表現力
文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工
kokoro
株式会社 ココロ
〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL：042-530-3939　FAX：042-530-4050
http://www.kokoro-dreams.co.jp/

小さなボディーに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム
メディアグローブⅡ (MEDIAGLOBE-Ⅱ)

メディアグローブⅡは世界で初めてフルカラー投映を可能にした小型デジタルプラネタリウム"メディアグローブ"の後継機種。地上で見られる星空の投映だけでなく、3D天文データベースによる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配いりません。小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けます。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社
東京事業所　〒173-0003　東京都板橋区加賀 1-6-1　TEL (03) 5248-7051
大阪事業所　〒550-0005　大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階　TEL (06) 6110-0570
東海事業所　〒442-8558　愛知県豊川市金屋西町 1-8　TEL (0533) 89-3570

TOKYO SCIENCE CO., LTD.
ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本

since 1974

地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F　TEL. 03(3354)0131（代表）◆

Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 東京サイエンス
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
Practical Specimens for Study of Earth Science

全科協ニュース編集委員会
ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長
國府田良樹
大阪市立自然史博物館 学芸課学芸員　佐久間大輔
科学技術館 企画広報室室長　田代英俊
国立科学博物館 事業推進部 連携協力課長　亀井　修
全科協事務局
国立科学博物館 事業推進部 連携協力課　守井
Tel.03-5814-9863　Fax.03-5814-9898
発行日　平成22年1月1日
発　行　全国科学博物館協議会©
〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印　刷　島崎印刷株式会社